

プロブレムリストの作り方

内科学研鑽会では主治医機能を合理的に営むために考案された「総合プロブレム方式」に基づいてプロブレムリストを作成しています。

以下に、総合プロブレム方式(総プ方式)のプロブレムリストについての簡単なルールを 2 つ紹介します。まずはこの 2 つのルールに従ってプロブレムリストを作成して下さい。

=====
ルール①「プロブレムは病気(病気とその名)、1つの病気に1つのプロブレム」

患者のプロブレムを一覧表にしたのがプロブレムリストです。総プ方式では、患者の病気(=疾患)をプロブレムとしています。

以下の例を見てください。

例 1 (総プ方式でないリスト)

- | | |
|-----|-------------|
| # 1 | 急性腎盂腎炎(※3) |
| # 2 | 白血球左方移動(※3) |
| # 3 | 独居高齢者(※1) |
| # 4 | 肺癌の疑い(※2) |

例 2 (総プ方式プロブレムリスト)

- | | |
|-----|--------|
| # 1 | 肺結節 |
| # 2 | 急性腎盂腎炎 |

※1 プロブレムは「病気」ですから、独居高齢者のような社会心理的問題はプロブレムとはしません。

※2 プロブレムは病気と「その病気の名」です。例 1 では、肺に「なにか」があって、その鑑別診断として肺癌を疑っているのですが、その「なにか」が何であるのか全くわかりません。例えば、径 1cm の肺結節でも、5 cmを超える肺腫瘍でも、多量片側胸水でも肺癌は鑑別になり得ます。例 2 のように、現にある事実(肺結節)をプロブレム名とします。

※3 例1の急性腎盂腎炎と白血球左方移動の関係を考えます。すると、急性腎盂腎炎という病気があって、白血球左方移動はそれを示唆する検査所見の一つです。つまり病気としては一つですから、例 2 のようにプロブレムは急性腎盂腎炎のみとなります。

=====

ルール②「プロブレムを時系列に並べる」

総プ方式では時系列(病気が発症した順)にプロブレムを並べ、プロブレムリストとします。
総合プ方式プロブレムリストの以下の例をみてください。

(A)

# 1	高血圧症
# 2	慢性腎不全
# 3	2型糖尿病

(B)

# 1	2型糖尿病
# 2	慢性腎不全
# 3	高血圧症

(A)は高血圧症→慢性腎不全→2型糖尿病の順に病気が生じたことを意味します。つまり、少なくとも腎臓の病気は糖尿病性腎症ではない、と断言できます。

(B)は2型糖尿病→慢性腎不全→高血圧症の順に病気が生じたことを意味します。腎臓の病気は糖尿病性腎症かもしれません。

このように、時系列にプロブレムを並べるというルールにのっとると、上記2つのプロブレムリストは全く別の病態の患者であることを明示しています。#1がその時一番重要なプロブレムというのではなく、その患者における病気の成り立ち・経過を重視した病気の発症順にプロブレムを並べることをルールとしています。

=====

さらに詳しく「総合プロブレム方式」を知りたい場合は以下をご参照ください。

- ・正しい診療への合理的アプローチ:総合プロブレム方式のすすめ
- ・総合プロブレム方式:新時代の臨床医のための合理的診療形式
- ・カルテはこう書け! 目からウロコ「総合プロブレム方式」
- ・総合プロブレム方式ポケットマニュアル (内科学研鑽会より頒布)